

令和元年度第2回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会（概要）

- 1 開催日時 令和元年9月5日(木) 15:00～17:00
 - 2 場 所 東北森林管理局 4階 第3会議室
 - 3 出席者 黒瀧委員、小野寺委員、高橋委員、林委員、守屋委員、大坂委員、佐々木委員、安部委員
 - 4 検討結果 木質バイオマス燃料、製紙用チップ原料の引き合いは依然として強く、製材、合板用カラマツについても素材の不足感があるものの、全体的には素材の入荷が順調に推移している。
また、原木価格及び製品価格についても比較的安定しており、需給バランスが保たれている状況となっている。
以上のことから、現在のところ供給調整の必要性はなく、国有林には今後も需給動向を注視していただくようお願いする。
- 5 主な意見
- (1) 国産材の需給等
 - ① 秋口以降は原木の出材量が減少すると予想されるが、各工場在庫を積み増しているため、昨年ほどの不足にはならないと予想される。
 - ② 製材用素材はスギの在庫に余裕があり、価格は横ばいから弱含みで推移すると予想される。
 - ③ 合板用材について、スギはやや余り気味も価格は横ばいで推移。カラマツは引き続き引き合い強く高値保合。
 - ④ 低質材はバイオマス用、製紙用ともに地域差があるが慢性的に不足状態で、高値推移で引き合いも強い。
 - (2) 他地域への輸送・輸出
 - ① 北海道からのカラマツ・トドマツ等の供給は回復しているが、道内需要が旺盛なため、十分な量とはなっていない。
 - ② 中国向けの原木価格は弱含んでいるが、まだ中国向けに原木を集めようとする動きも見られる。